



180年の時を超え 歴史と自然に調和する複合施設



パークレストラン新築工事

茨城県水戸市の観光名所【常盤公園（偕楽園）】は金沢の兼六園、岡山の後楽園とならぶ日本三名園のひとつである。1842年に水戸藩第9代藩主徳川斉昭公により開園され、現在は2月下旬から3月中旬にかけての「梅まつり」を皮切りに、桜、つつじ、秋には萩、初冬には二季咲桜と、四季折々の風情ある観光名所として親しまれている。

本工事では、その一画に茨城県初のパークPFI事業として、景色を眺望しながら飲食を楽しむレストラン棟及び様々なイベントを開催できるホール棟を併設し、歴史性・周辺環境との調和を考慮し将来の変化にも柔軟に対応可能な、複合施設を建設した。



全景



多目的ホール



上空より望む

工事概要

工 事 名	偕楽園月池地区整備事業(パークレストラン)新築工事
工事場所	茨城県水戸市千波町2692-1
工 期	令和4年3月19日～令和5年3月20日
発 注 者	アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社
設計監理者	合同会社H & H設計
施 工 者	株木・黒木 特定建設工事共同企業体
工事内容	飲食棟：S造 3階建（延床面積：2,317.99m ² ） ホール棟：S造 2階建（延床面積：450.89m ² ） その他：外構造園工事、交差点改良工事



レストラン



月池より望む

担当者の声

由緒ある日本三名園の一つである偕楽園の敷地内に建物を建設する事は賛否両論あり、さらに県最初のパークPFI事業ということもあって、着工前から多くの注目が集まる工事となりました。また敷地の高低差が最大で4.35mと非常に大きく、月池内に張り出した形で建設するため、自然保護はもちろん周辺環境へのリスクアセスメントを各工種ごとに行い、対応策を決めてから着工しました。土質や水位を確認し、杭工事～躯体工事まで既存品の養生・移設、景観及びホテルの生育に配慮した仮設照明・排水、樹木管理等の計画については、茨城県を含めた関係各社、協力会社と共に対策の検討を十分に行い工事を進めました。

また、内外装の仕上げが複雑であること、別途工業者が9社混在しながら工事すること、外構工事の半分が官庁管轄工事である中で工事を行うという条件があったため、工程計画・総合プロット図・別途工事工程打合せ・外構仕上図等を早期に作成し、基礎工事時の段階から計画的に打合せを実施し、工事を進めました。

杭工事～竣工まで実質工期が9ヶ月と短い中で、参画いただいた皆様にお力添えをいただき、社員・協力会社一丸となり無事故・無災害で完成する事が出来ました。



茨城本店 建築部

今津雄介

畠山太一

沼崎弘道

長谷川 宙

山崎凱斗